



沢渡 朔/NADIA #16 1971-72

日本の写真、1970年代

——凍結された「時」の記憶——

Japanese Photography in the 1970's

1991年9月19日[木]—11月12日[火]

東京都写真美術館

Tokyo Metropolitan Museum of Photography

〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 ☎03(3280)0031(代)

展览会のご案内 03(3280)0099(テレフォン・サービス)

日本の写真、1970年代

——凍結された「時」の記憶——

Japanese Photography in the 1970's

森山 大道	須田 一政	土田ヒロミ	十文字美信
北井 一夫	秋山 亮二	久保田博二	沢渡 朔
有田 泰而	山村 雅昭	森 永 純	田村 彰英
山崎 博	石内 都	築地 仁	荒木 経惟



1. 北井一夫/田植えの日(新潟県小千谷市)「村へ」より 1978
2. 須田一政/秋田・湯沢「風姿花伝」より 1976
3. 十文字美信/蘭の舟 #10 1975-80
4. 築地 仁/写真像 #5 1981-83



1960年代後半から、それまでの写真に対する認識では捉えられない写真が出現してくる。記録や伝達といった写真の持つ基本的な機能を持たない、あるいは、感じさせない写真である。いわゆる「アレ・ブレ」「コンボラ」といった言葉に代表される粒子を荒らし、ブラした写真であり、モノクロ、横位置、第三者的な視線を持つ写真であった。

こうした状況の中で、1968年、高梨豊、中平卓馬、多木浩二、岡田隆彦の四人の同人により季刊誌「プロヴォーク」は創刊された。〈思想のための挑発的資料〉というサブ・タイトルを持つこの小冊子は、写真の持つ精緻な再現性や記録、伝達性といったものを拒否することで、それまでの方法論を否定し、新たな表現法を提示することで、「人間と世界を全体化するものとしての知」(『プロヴォーク』第1号より)の獲得を目的としたものであった。第2号から参加した森山大道の暴力的ともいえる映像は、多分に衝撃的であり、とりわけ若い写真家に強い影響を与えることになる。

これとは別な文脈で、民俗的な日常性を凝視し、その意識を表出させようとする須田一政、土田ヒロミらの仕事、また、'60年代末の大学闘争、成田空港問題などを体験した北井一夫が、その後取り組んだ「村へ」に見ることのできる、ある種の刹那主義的な心情を看過するわけにはいかない。同じ頃、田村彰英の写真は、定点観測と



2 3



いう古典的な手法を用いながらも、その事の持つ意味や当時の流行からは全く違った位置にあり、自己の感性のみに依拠している。

また、'70年代に入って撮られた築地仁の写真は、日本の写真に散見しうる叙情性を拒否することから始まっている。写された金属やコンクリートの建造物からは、無機質な感覚が漂っている。

本展は、'70年代に開花するべく、その導入となる「プロヴォーク」の時代から、次代の一つの方向性を予感させる'80年代初期の写真約140点で構成するものである。

(フロアレクチャーのお知らせ)

- 第1回 9月28日(出)午後2時～
- 第2回 10月12日(出)午後2時～
- 第3回 10月26日(出)午後2時～
- 第4回 11月9日(出)午後2時～

(講演会のお知らせ)

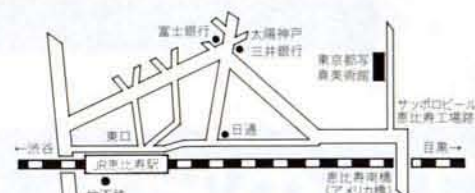
テーマ=「1970年代の写真を読む」

日 時=10月19日(出)午後2時～

会 場=東京都庁・都民ホール(都議会議事堂1階)
東京都新宿区西新宿2-8-1

講 師=梶原高男(『日本カメラ』編集長)

秋山亮二(写真家) 土田ヒロミ(写真家)



東京都写真美術館 Tokyo Metropolitan Museum of Photography
〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24 ☎03(3280)0031代

交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩5分 お車での来場はご遠慮下さい